

「派手」に隠された繊細さ

文&写真 山下蛭(経済学部2年)

数多くのイベントが行われたホームカミングデー。私の好奇心をかき立てたのは中央大学学友会体育連盟相撲部による公開稽古でした。

稽古風景は日常の大学生活では、まず見られないもの。喜々として向かった先は、第一体育館1階の相撲道場です。

初めに目にしたのは、入念にストレッチをする部員の姿。一つひとつの動作をしっかりと20分ほど続けています。

恥ずかしながら私には相撲の知識がなく、相撲とは力と力のぶつかり合い、稽古場でも最初から激しい動きをするものと思っていました。

いささか拍子抜けでした。ところが「すり足」というものを初めて見てびっくり。相撲の印象が大きく変わりました。

腰をぐっと落として、すり足でまっすぐ前へ。向こう側の俵で折り返す。これを何度も何度も繰り返しています。

たまに見るテレビの大相撲中継はものすごく派手で、細かい動きなどしていないように見えます。しかし、目の前で展開される中大相撲部の稽古では、部員たちが自分の体を慈しみ、動きの一つひとつを体に染み込ませているかのようです。

相撲は派手さが売りたいと思いましたが、あのダイナミックな動きの裏側には、こんなにも繊細で丁寧な動作が数多く隠されていたのです。私の心は激しく揺さぶられま



相撲部による公開稽古

した。

すり足を終えると、いよいよぶつかり稽古が始まります。雄たけびと激しくぶつかり合う衝撃音が道場に響き渡ります。

相手との呼吸が合わず、先に飛び出してしまうこともあり、やり直しとなる場面も。間近で見た稽古は、まさに「圧巻」の一言に尽きました。

部員たちは勝敗を分ける一瞬のために、何時間も何日も稽古を続けています。激しい当たりで全身を真っ赤にしても、なお、相手に向かって行く姿は芸術作品にすら見えました。

相撲道場を見学して、勝負事を本気で楽しむ私なりの見どころを2つ発見しました。まずは、地道な努力。次が、相手と心を通わせること。

反復練習によって得られる基礎技術がなければ、派手なパフォーマンスもできないのでしょうか。相手に敬意をもって気持ちを合わせなければ相撲になりません。

自戒を込めて、こう思います。このごろは、楽をして、適当に、自分さえよければいい、という風潮が強まっているように感じます。

そんな生き方が本当に楽しいのでしょうか。稽古を見てそう考えるようになりました。稽古が私を奮立たせてくれました。

見学を大きな心で受け入れていただいた相撲部の皆さま、本当にありがとうございました。

発足 白門会2016

2016年3月に中央大学、中央大学大学院、専門職大学院を卒業する者、これに準ずる者で構成する新たな中大学員会年次支部の一つ、「白門会2016」を同年3月24、25日の卒業式をもって発足します。

同窓生の交流を広げ、深めるとともに中大の興隆と発展に寄与することを理念とします。

3月24日夕方 渋谷にて卒業パーティーを行います。詳細については、下記【お問い合わせ】から。ご参加お待ちしております。

【問い合わせ】

白門会2016準備委員

Mail : hakumokai2016@gmail.com

https://www.hakumokai2016.com

Twitter : @hakumokai2016